

宮城県加美町議会

事績 1 政策づくりと監視機能を十分に発揮している議会

まとまった会派等がないため、これまでは、それぞれの各議員が個人的な繋がりでも活動してきた。

現在の早坂議長が就任後、平成 29 年 5 月からこれまではなかった議員だけで重要な課題について討議する「議員協議会」を立ち上げた。執行部と対等に議論していくには、議員個人の力だけでは、充分ではないという各議員の共通認識である。議員協議会では、副議長を座長とし議員間討議を行い、町の事業運営のあり方についての問題点を浮き彫りにした。

昨年度からの課題であったこども公園整備事業の計画は、鳥獣被害が多く安全面の確保や冬期間使用などが難しい点と費用対効果が望めないなど「ゆ〜らんど」周辺が適地ではないという意見が出され、ゼロベースで議論するべきと報告した結果、中止となった。

また、年度途中で提案された拠点整備問題は、矢越の庁舎建設予定地であることを、町が情報提供して、庁舎ではなく別に新たな拠点施設を提案させた疑いがあること。さらに、現在、新庁舎の位置が条例で決まっているにも関わらず、条例改正をしないまま推進検討会議などを開催し、議論を先行させるのはおかしいのではないかと、これまで町を二分するほど議論してきた「庁舎の位置問題」について、手順が違うと指摘した。そして、平成 29 年 9 月の定例会では、加美町議会初めての決算不認定となった。

この結果により、予算・決算審査特別委員会のあり方について、十分時間を掛けて見直しを行った。これまでは 1.5 日程度で間項目ごとに行われてきたが、年度末の予算審査から常任委員会の所管する担当課ごとに課長だけでなく係長以上の出席を可能にした。

平成 30 年 3 月の予算審査では、最終的に取りまとめたものを町長に対して総括質問を行い、最終答申のない公民館の基本設計料など加美町議会で初めての修正可決となり、しかも全会一致であった。議員協議会を立ち上げて、活発な議員間討議で議論してきたことは、チーム加美町議会として、慎重な審査に繋がり行政のチェック機能を果たし、議会の活性化に貢献した役割は大きい。

事績 2 住民に開かれた議会

主な取り組みとして、常任委員会ごとに準公共団体との意見交換会と子ども議会の開催の 2 点を実施している。

1 つ目の意見交換会については、各常任委員会で準公共団体等へ出向き、意見交換会を開催している。農業法人や婦人会と実施しており、農業法人との意見交換会では、日照不足による災害や豪雨災害などに伴う補償対策などの意見を取りまとめ、農業振興策に関わる要望書を取りまとめた。

また、婦人会との意見交換会では、国立音楽院の状況や町の借金、ふるさと納税、小中一貫校の予定の有無などの具体的な要望を話し合った。また、女性議員を増やすには

などの話題でも盛り上がりを見せた。中でも学校周辺の交差点の横断歩道が一部ないため、安全確保ができていないという意見については、早速現地を確認後、地元警察署へ改善要望を行い通学路の安全確保へ繋がっている。

各常任委員会の活動報告を行い、議員全員で情報の共有を行っている。また、各常任委員会から提出された予算・政策要望書を議員協議会で討議し、執行部に提出して次年度の予算等に反映させている。

今後も地域おこし協力隊との意見交換を予定しており、住民への開かれた議会の取り組みが拡大している。

2つ目の子ども議会については、平成27年11月に「加美町 未来・夢 子ども議会」を開催し、現在も継続中である。議会の仕組みや行政の仕事を理解・学習し関心を高めってもらう目的で町内の小学校9校から、6年生の代表2名が子ども議員として任命し、議会主催で実施している。実際に議員が各学校を訪問し、事前勉強会を行い議会に関心を持ってもらう活動もしている。

中には、子ども議員が提案した教室の椅子や机の老朽化の改善や通学路の安全対策など実現に至ったケースもある。

また、自然や文化・環境を守り続けたり、将来も安全・安心なまちで誰もが心豊かに成長できる町などへの取り組みを決意する子ども議会宣言を起立採決で採決し採択に至っている。

学校側からは、子ども議会の開催で子どもたちは、町の現状や未来についてより一層真剣に考えられるようになったことや、議場での質疑応答により自分たちもまちづくりの一員であることを自覚できたと感想をもらい、5年は続けてほしいと要望をいただいている。

来年が5年目であり、議会と学校を通して、地域の課題解決に向け成熟しつつある。また、現在9校ある小学校は来年統合のため8校に減るが、築いてきた関係を大切にしていきたい。

子ども議会も議会中継をネット配信し、スマートフォンでも中継が見られるように改善した。議会改革の一つとして始まり、今では議会と住民を繋ぐ重要なツールの一つとなっている。今後も住民が議会をより身近に感じてもらう取り組みが重要である。